Panasonic®

取扱説明書

赤外線ワイヤレスマイクロホン

品番　WX-LT150

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（5～7ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

商品概要

本機はハンドヘルド型のPLL赤外線ワイヤレスマイクロホンです。
赤外線ワイヤレス受信機（WX-LR100/A、WX-LR100/B）および赤外線ワイヤレスパワードスピーカー（WX-LP100）（以下合わせて、受信機）と組み合わせて使用できます。
（2009年6月現在）

- PLLシンセサイザー方式の採用により、4波から希望する周波数を1波（4チャンネルの内、1つのチャンネル）選択できます。
- 送信チャンネルの変更は、チャンネル切換スイッチを操作して行います。
- 電源は充電池（単3形）、乾電池（単3形）、充電器（別売り）の3通りで使用できます。（☞28ページ）
- 本機に充電器（WX-LZ150）を接続して、当社のニッケル水素電池を充電できます。
- 本機の外部入力端子に各種音源を接続し、受信機へ送信できます。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）..1冊
保証書 1式
動作確認用単3形マンガン乾電池 1本
チャンネル設定用小型ドライバー 1本

メモ

- 本機に付属の単3形マンガン乾電池は、電池寿命が短いため動作確認用として使用してください。
- 動作確認終了後は、以下の電池を使用してください。
  充電池：単3形ニッケル水素電池
  乾電池：単3形アルカリ乾電池

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
②お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本商品の損傷など
③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことなどで被る不便・損害・被害
⑤第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
⑥第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害

もくじ

はじめに

設定のしかた

使いかた

電池の交換・充電

必要なとき

安全上のご注意 （必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

区分	内容
⚠ 危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です。）

図記号	内容
	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 危険

当社のニッケル水素電池以外は充電しない

禁止

電池の液もれ、発熱、破裂の原因となります。

- 他社の電池の充電は、専用の充電器を使用してください。

警告

乾電池は充電・分解・ショートしない

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

航空機内では電源を切る

運航の安全に支障をきたすおそれがあります。

充電池は分解・ショートしない

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる

煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- 直ちに電池、充電器を抜いて、販売店に連絡してください。

複数の送信機を同じチャンネルに設定しない

本機の電源を入れたときにノイズが発生し、スピーカーの破損や、過大な音量により耳を傷める原因となります。

不安定な場所に置かない

落下などでけがの原因となります。

⚠ 注意

電池は極性（プラス＋とマイナス－）を正しく入れる

間違えると、電池の破裂や液もれにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。

ニカド電池は使わない

万一、内部が破損していた場合、発火の原因となります。

使用時における通話内容傍受に関するご注意

本製品は赤外線を利用した無線システムのため、赤外線の届く範囲内での音声信号の授受が可能となります。
赤外線の届く範囲内であれば、障害物（壁など）がある場合を除き、すべての場所に音声信号が届きます。そのため、傍受に関する対策を行っていない場合は、**悪意のある第三者によって、赤外線を故意に傍受し通話内容を聞かれる可能性があります。**

この問題に対応するため、お客様が行おうとする赤外線による送受信範囲の境界に、赤外線を遮断するもの（遮光カーテンなど）を設けることで、問題が発生する可能性を軽減します。
当社では、傍受に対する対策を行わずに使用した場合に発生する問題を十分理解していただいたうえで、お客様の責任において傍受に対する対策を行うことをおすすめします。
傍受に対する対策を行わない、あるいは赤外線ワイヤレスの仕様上やむをえない事情などにより、傍受の問題が発生した場合、当社ではそれによって生じた損害に対する責任は負いかねます。

使用上のお願い

⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

- 使用温度範囲は、5 ℃～35 ℃です。10 ℃以下になると、使用電池の寿命が短くなりますので、動作時間を計算する場合にはご配慮ください。
- 本機を分解したり、内部の部品にさわったりしないでください。
- 本機に入れた電池は、電源を切った状態でもわずかに消費されています。そのまま放置すると液もれする可能性がありますので、使用しないときは電池を取り出してください。
- 高所で使用する場合は、取り扱いに十分ご注意ください。
  落下すると、けがや製品の故障の原因となります。
- 電池は、直射日光の強い所や炎天下の車内、火のそば、ストーブの前面などの高温になる場所で使用、放置しないでください。
- 電池の電極や電池カバー内の端子は汚れた手で触れないでください。
  接触不良やノイズの原因になります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよくふいてください。
  また、電池カバー内の端子は汚れが付きやすいので、定期的（月に1回程度）にエチルアルコールでふいてください。ベンジンやシンナーなどの溶剤や金属磨きなどの研磨剤を使用すると、変形・変色やメッキがはがれてきますので、使用しないでください。
- 劣化した電池、内部短絡した電池を使用しないでください。電池の液もれ、発熱、破裂の原因となります。
- 本機は防滴仕様ではありません。ぬれた手で使用したり、直接水のかかる場所で使用したりしないでください。
- 赤外線発光部を手や衣服でおおったり、ラベルを貼るなどしてふさいだりしないでください。音声が出なかったり、途切れたりする場合があります。
- 赤外線ワイヤレスマイクロホンどうしの距離は50 cm以上離し、赤外線ワイヤレスマイクロホンと受光センサーとの距離は2 m以上離してください。
  周波数の干渉により混信を起こすことがあります。
- 本機は屋内専用です。
- 本機は、回転機、変圧器、自動車のイグニッション雑音の影響を受けにくい場所を選んで使用してください。

- パワーアンプ、ビデオモニター、測定器などの発熱の多い機器の上や、夏の閉め切った車の中に放置しないでください。保存はなるべく乾燥したところで行ってください。
- 赤外線ワイヤレスマイクロホンと受光センサーの間に、赤外線を遮断する壁や人が入ると、音声が届かなくなります。
- 高精度の調整がしてありますので、強い衝撃を受けたり、床などに落とすと特性が変化することがあります。取り扱いには十分ご注意ください。本機に衝撃などが加わると受信機の音声出力により衝撃音が発生しますので、衝撃を加えないようにしてください。

ニッケル水素電池のリサイクルについて

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池のリサイクルにご協力ください。

Ni-MH

使い終えた乾電池を捨てるときは

- プラス⊕ 極とマイナス⊖極をセロハンテープで絶縁してください。
- 捨てるときは、お使いになっている地域の自治体（市町村）の指示に従ってください。

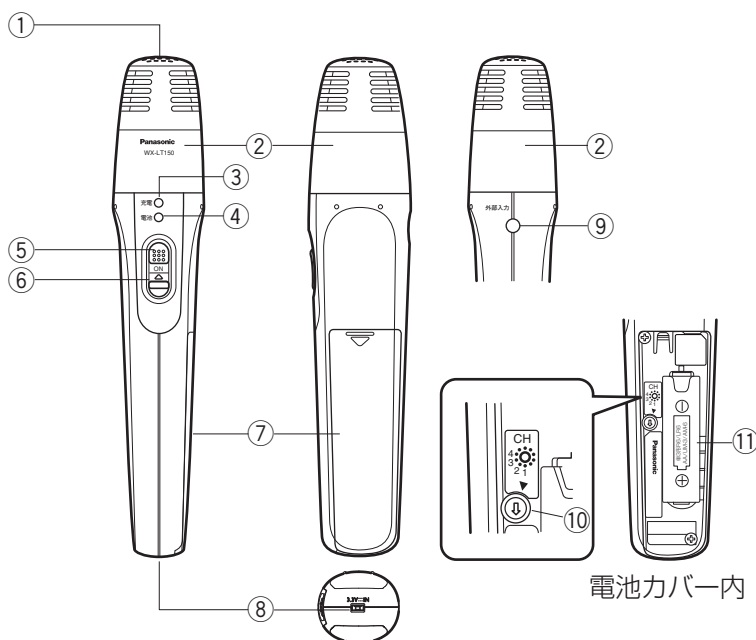
お手入れについて

- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

上手な使いかた

- ノイズ防止について
  電池の交換や出し入れのときは、大きなノイズが発生する恐れがあるため、本機の電源を切ってパワーアンプやミキサーなどのボリュームを絞ってから行ってください。
- 雑音のないきれいな音で聞くには
  本機と受光センサーの距離は、約8 mまで離して使用できます。雑音が多いときは2 m～8 mの範囲内で、本機をできるだけ受光センサーに近づけて使用してください。
  受光センサーと本機を2 m以内に近づけた場合、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などを起こすことがあります。

各部の名前とはたらき

電池カバー内

①マイクロホン部
ここから話者の音声を集音します。

②赤外線発光部
ここから赤外線を送信します。手や衣服でおおったり、ラベルを貼ったりするなどしてふさがないでください。

③充電表示ランプ[充電]（赤色）
充電中の状態を示します。
（☞20、21ページ）
点灯：充電中です。
消灯：充電完了または電池未挿入です。
点滅：乾電池または劣化した充電池が挿入されている可能性があります。電池を確認してください。

④電池表示ランプ［電池］
本表示ランプによって本機の電源と電池の状態を以下のように示します。
点灯（緑色）
：電源「入」の状態です。
点灯（橙色）
：電源「入」の状態ですが、電池残量が少なくなっています。
点灯（赤色）
：電池残量がありません。電池を充電または新しい電池に交換してください。
消灯　：電源「切」の状態です。
点滅（緑色、橙色、または赤色）
：チャンネル設定に誤りがあります。（☞13ページ）

⑤プッシュ式電源スイッチ
押している間、電源「入」の状態になります。

⑥電源スイッチ［ON］（固定）
押し上げて、電源「入」の状態に固定します。長時間連続して通話するときに使用します。（☞15ページ）

⑦電池カバー（側面）
電池カバーを押しながら下に引くと外れます。

⑧DC入力端子［3.3V⎓IN］（下面）
充電器（WX-LZ150）を接続し、本機に挿入されている充電池を充電したり、本機に電源を供給したりします。（☞20、21ページ）

⑨外部入力端子［外部入力］（後面）
接続した外部機器の音声を赤外線ワイヤレス受信機に伝送します。
本端子に外部機器を接続している時は、マイクロホン部①の音声は伝送されません。（☞17ページ）

⑩チャンネル切換スイッチ（電池カバー内）
本機の送信チャンネルを切り換えます。（☞13ページ）

⑪電池スロット（電池カバー内）
充電池（単3形ニッケル水素電池）1本、または乾電池（単3形アルカリ乾電池）1本を、内部の極性表示（⊕、⊖）に従って入れます。
（☞14、18、19ページ）

メモ
- ニッケル水素電池の充電は、専用の充電器（WX-LZ150）を使用してください。充電時間は充電池の種類や使用状況によって異なりますが、最長約8時間で完了します。

チャンネルを設定する

本機の赤外線送信チャンネルを設定します。使用する赤外線ワイヤレス受信機および赤外線ワイヤレスパワードスピーカーに対応したチャンネルを設定します。詳細については受信機側の取扱説明書をお読みください。

使用する赤外線ワイヤレス受信機および赤外線ワイヤレスパワードスピーカーにより、本機のチャンネルの設定が異なりますのでご注意ください。

- WX-LR100/A、WX-LP100 の場合
  チャンネル　1ch：2.30 MHz
  　　　　　　2ch：2.80 MHz
- WX-LR100/B の場合
  チャンネル　3ch：3.20 MHz
  　　　　　　4ch：3.80 MHz

設定のしかた

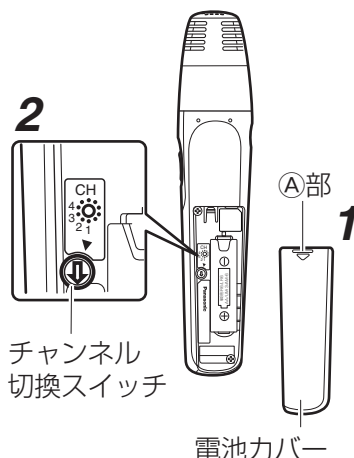
重要
- 本機の電源が「入」の状態でもチャンネル設定はできますが、ノイズ防止のため、パワーアンプやミキサーなどのボリュームを絞ってから行ってください。

1 本機の電池カバーを取り外す

電池カバーのⒶ部付近を両手親指で押しながら下に引いて外します。

2 送信チャンネルを設定する

チャンネル切換スイッチをチャンネル設定用小型ドライバー（付属品）で回し、クリック感のある位置で止めて送信チャンネルを設定します。チャンネル切換スイッチのポジションとチャンネルは以下のとおりです。

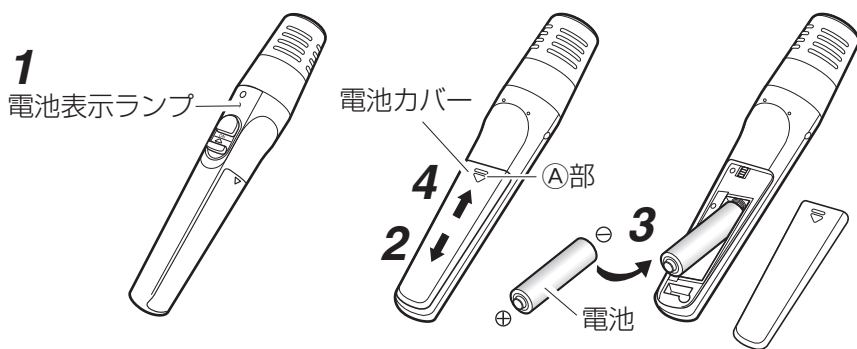
ポジション	チャンネル
1	1ch（2.30 MHz）
2	2ch（2.80 MHz）
3	3ch（3.20 MHz）
4	4ch（3.80 MHz）

- 1～4 以外のポジションに設定すると、電池表示ランプが点滅します。
- お買い上げ時は「1」に設定されています。

電池を入れる

- 「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。
- 本機の電源スイッチが「切」で、本機に充電器を接続していない状態で電池を入れてください。
- 電池を交換する場合は、「電池を交換する」（☞18、19ページ）をお読みください。

メモ

- 電池の電極は手で触れないでください。接触不良や雑音の原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。

使いかた

1 電池表示ランプが消灯していることを確認する

2 電池カバーを取り外す

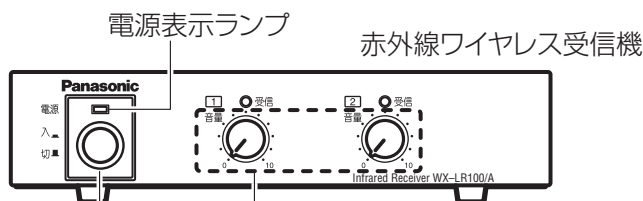
電池カバーのⒶ部付近を両手親指で押しながら矢印の方向へ引いて取り外します。

3 電池を挿入する

電池の極性（プラス⊕、マイナス⊖）を確認し、充電池の場合は単3形ニッケル水素電池1本、乾電池の場合は単3形アルカリ乾電池1本を電池スロット内部の極性表示（⊕、⊖）に従って入れます。

4 電池カバーを取り付ける

電池カバーを矢印の方向へ押し上げて、元どおりに取り付けます。

マイクを使う

1 **受信機の電源スイッチを押して、受信機の電源を入れる**

受信機の電源表示ランプが緑色に点灯します。

2 **本機の電源スイッチあるいはプッシュ式電源スイッチを入れる**

本機の電池表示ランプが緑色あるいは橙色に点灯します。

3 **音量を調節する**

受信機の受信音量ボリュームで音量を調節します。

使用後は本機と受信機の電源を切ってください。

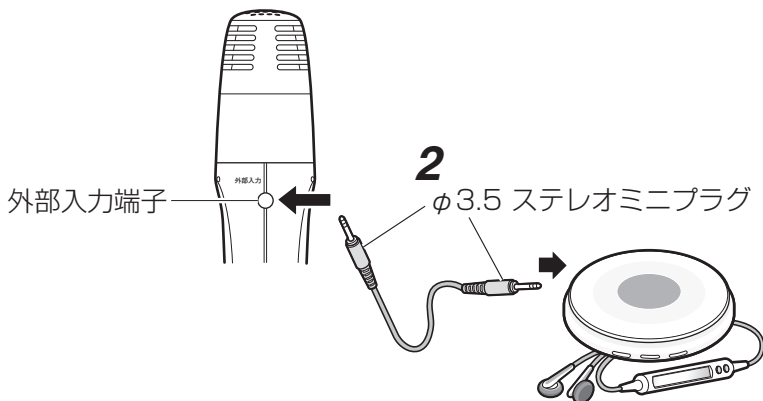
重要

- 複数の赤外線ワイヤレスマイクロホンの送信チャンネルを同じチャンネルに設定しないでください。
  本機の電源を入れたときにノイズが発生し、スピーカーの破損や過大な音量により耳を傷める原因となります。
- 本機を持ったまま赤外線ワイヤレスパワードスピーカー（WX-LP100）の音量つまみを操作する場合など、本機を赤外線ワイヤレスパワードスピーカーに近づけないでください。ハウリングなどの大きな音が発生し、耳を傷める原因となります。

メモ

- 赤外線ワイヤレス受信機（WX-LR100/A、WX-LR100/B）および赤外線ワイヤレスパワードスピーカー（WX-LP100）の取扱説明書もあわせてよくお読みください。

外部機器を接続する

外部機器（ポータブルCDプレーヤーなど）を本機の外部入力端子に接続して、その音声を受信機へ送信します。

1 **本機と外部機器の電源を切る**

2 **外部機器を接続する**

φ3.5 ステレオミニプラグを使用し、外部機器（ポータブルCDプレーヤーなど）の音声を外部入力端子へ接続します。

3 **外部機器（ポータブルCDプレーヤーなど）の電源を入れる**

4 **本機の電源を入れる**

5 **音量を調節する**

外部機器の音量を調節します。

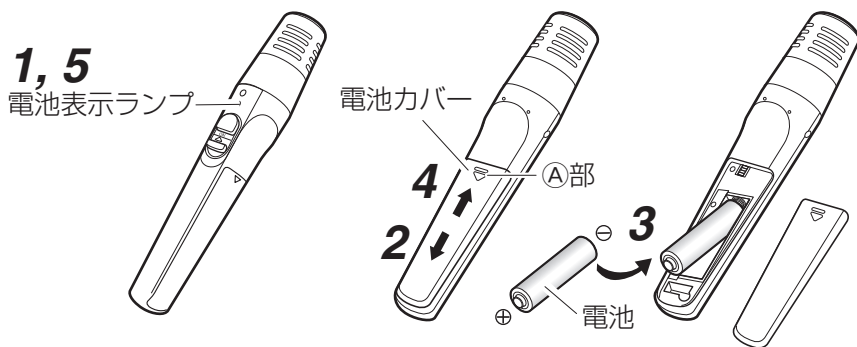
メモ

- 外部入力端子にφ3.5ステレオミニプラグを挿入すると、この音声が優先されて、本機マイクロホン部の音声は送信されなくなります。
- 外部機器の音声がステレオの場合は、左右の音がミックスされます。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてよくお読みください。

電池を交換する

- 「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。
- 電池の交換は、本機の電源スイッチが「切」で、本機に充電器を接続していない状態で行ってください。
- 次のような場合は、乾電池が消耗している、または充電池の残量が不足しています。新品の乾電池と交換、または充電池の場合は充電を行ってください。
  - ・電池表示ランプが赤色点灯している場合
  - ・電池表示ランプが点灯しない場合

メモ

- 電池の電極は手で触れないでください。接触不良や雑音の原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。
- 本機に入れた電池は、電源を切った状態でもわずかに消費されています。そのまま放置すると液もれする可能性がありますので、使用しないときは電池を取り出してください。

1　電源スイッチを切る

電池表示ランプが消灯していることを確認します。

2　電池カバーを外す

電池カバーのⒶ部付近を両手親指で押しながら矢印の方向へ引いて取り外します。

3 電池を交換する

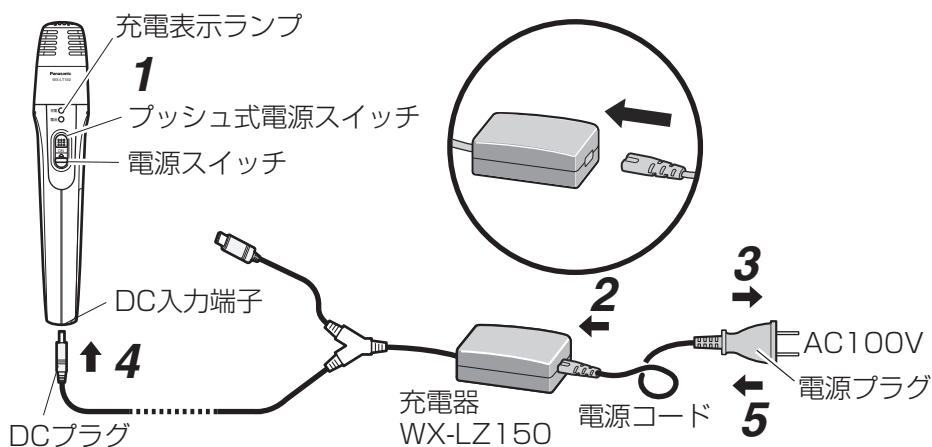
使用済み電池を取り外すときは、⊕側から先に外してください。
電池を入れるときは、電池の極性（プラス⊕、マイナス⊖）を確認し、充電池の場合は単3形ニッケル水素電池1本、乾電池の場合は単3形アルカリ乾電池1本を電池スロット内部の極性表示（⊕、⊖）に従って入れます。

4 電池カバーを取り付ける

電池カバーを矢印の方向へ押し上げて、元どおりに取り付けます。

5 電池表示ランプを確認する

電源スイッチあるいはプッシュ式電源スイッチを押し、電池表示ランプが緑色あるいは橙色に点灯することを確認します。

充電池を充電する

1 **すべてのマイクロホンの電源を切る**

2 **電源コードを充電器（WX-LZ150）のAC100 V入力端子へつなぐ**

3 **電源コードの電源プラグをACコンセントへつなぐ**

4 **充電器のDCプラグを本機のDC入力端子に接続する**

DCプラグは、△印面をマイクロホン側面の電池カバー側に向けて挿入します。
マイクロホン2台を同時に充電する場合は、DCプラグをそれぞれのDC入力端子に挿入します。本機１台のみ充電する場合は、本機に挿入しなかった方のDCプラグは傍らに置いておきます。充電器をマイクロホンに接続すると、各マイクロホンの充電表示ランプ（赤色）が充電状態を以下のように示します。

点灯：充電中です。
消灯：充電完了または充電池未挿入です。
点滅：主に以下の状態を示します。
- 乾電池または劣化した充電池が挿入されている可能性があります。電池を確認してください。
- 電池温度が許容範囲を超えた可能性があります。使用温度範囲内かを確認してください。

5 **充電が終わったら、電源プラグをACコンセントから抜く**

重要

- 当社のニッケル水素電池以外は充電しないでください。他社の電池の充電は、専用の充電器を使用してください。
- マイクを使用しながら充電することはできません。
- 本機の電源が「入」の状態で充電器を接続したとき、本機の電源が切れて充電を開始します。そのときは、電源スイッチをOFFの位置にしてください。
- 充電中に本機の電源を入れたとき、充電が停止して充電器の電源で動作します。そのときは、本機以外のマイクロホンは、充電器から外してください。

メモ

- 充電完了後も充電器を接続し続けた場合、自己放電によって電池残量が減少しても、自動的に充電は再開されません。
- 常時充電器を接続して本機を使用する場合は、電池を入れないでください。
- 本機の電源が「切」のとき充電器を接続しても充電表示ランプが点灯しない場合は、本機、充電器、電源コード、ACコンセント間のそれぞれの接続部が確実に接続されていることを確認してください。
- 充電時間は電池の種類や使用状況によって異なりますが、最長約8時間で完了します。
- 使用温度範囲外で充電すると、充電時間が著しく長くなることがあります。ただし、使用温度範囲内でも、本機の温度が高い場合や低い場合には充電時間が長くなることがあります。
- 充電中は充電器、本機、充電池が温かくなりますが、異常ではありません。
- 満充電の充電池を再度充電しないでください。充電池の劣化を早めます。
- 初めてお使いになる充電池や、長期間（3か月以上）ご使用になっていない充電池を充電する場合、1回では十分に充電されず、本機の使用可能時間が短くなる場合があります。これは充電池の特性によるものであり、その場合は充電と放電（本機の使用）を2～3回繰り返すことにより、使用可能時間が正常値まで回復することがあります。
- 乾電池が入ったマイクロホンを誤って充電しようとした場合、自動判別により充電は行われず充電表示ランプは点滅します。ただし、乾電池の種類や状態などの違いによって、自動判別に時間がかかり、その間充電表示ランプは点灯する場合があります。
- 満充電に近い充電池を低温下で充電しようとした場合、充電池によってはまれに乾電池と判別され、充電表示ランプが点滅する場合があります。
- 充電器（WX-LZ150）の取扱説明書もあわせてよくお読みください。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症　状	原因・対策	参照ページ
電源が入らない	●乾電池または充電池が入っていますか？ →乾電池または充電池を入れてください。	14、18、19
	●充電器が接続されていますか？（電池をご使用にならない場合） →充電器を接続してください。	12、20、21
	●電源スイッチは「入」になっていますか？ →電源スイッチを「入」にしてください。	12、15
	●電池が消耗していませんか？ →新しい電池と交換または充電池の場合は充電してください。	18、19、20、21
	●電池の極性（プラス⊕、マイナス⊖）の向きが間違っていませんか？ →正しい向きに電池を入れてください。	14、18、19

必要なとき

症　状	原因・対策	参照ページ
電池表示ランプが緑色、橙色、または赤色点滅していて使えない	●チャンネル切換スイッチを1～4の表示のない位置で使用していませんか？ →チャンネル切換スイッチは、1～4のクリック感のある位置に設定されていることを確認してください。	13
電池表示ランプ（橙色）と充電表示ランプ（赤色）が同時に点滅していて使えない	●本機に充電器が正しく接続されていますか？ →本機と充電器の接続を確認してください。	20、21
混信する	●本機のチャンネルが他のマイクロホンのチャンネルと重複していませんか？ →他のマイクロホンが使用していないチャンネル（周波数）にしてください。	13
	●複数のマイクロホンを近づけて使用していませんか？ →距離を離してお使いください。	9
	●本機を受光センサーに近づけて使用していませんか？ →距離を離してお使いください。	9

症　状	原　因　・　対　策	参照ページ
混信する	●近くに赤外線を使う機器や雑音源がありませんか？ →本機と受光センサーの距離を短くして使用してください。	9、10
ノイズが止まらない	●電池端子／電池電極が汚れていませんか？ →電池端子／電池電極を清掃してください。	9
受信がまったくされない （受信機側で音声が出力されない、受信表示ランプが反応しない）	●本機の送信チャンネルと受信機側の受信チャンネルの設定は合っていますか？ →本機の送信チャンネルを使用している受信機側に対応したチャンネルに設定してください。	13
	●チャンネル切換スイッチがクリック感のある位置に設定されていますか？ →チャンネル切換スイッチの設定を確認してください。	13
	●各機器間は、正しく接続されていますか？ →接続とケーブルを確認してください。	※

※ WX-LR100/A、WX-LR100/B、WX-LP100、WX-LS100 の取扱説明書（2009年6月現在）

症　状	原　因　・　対　策	参照ページ
受信がまったくされない（受信機側で音声が出力されない、受信表示ランプが反応しない）	●電源が切れている機器はありませんか？ →運用中は、すべての機器の電源を入れてください。	※
音声が出ない	●外部入力端子にφ3.5ステレオミニプラグが挿入されていませんか？ →外部入力端子に挿入されているφ3.5ステレオミニプラグを抜いてください。	17
充電できない（充電表示ランプが消灯している）	●充電池が入っていますか？ →充電池を入れてください。	14、18、19
	●充電器の電源コードの電源プラグがコンセントに根元までしっかりと差し込まれていますか？ ●充電器の電源コードが充電器に根元までしっかりと差し込まれていますか？ ●充電器のDCプラグがDC入力端子に根元までしっかりと差し込まれていますか？ →確実に差し込まれているか確認してください。	20、21

※ WX-LR100/A、WX-LR100/B、WX-LP100、WX-LS100 の取扱説明書（2009年6月現在）

症　状	原　因　・　対　策	参照ページ
充電できない（充電表示ランプが消灯している）	●本機の電源が「入」になっていませんか？ →本機の電源を「切」にしてください。	20、21
充電できない（充電表示ランプが点灯するが数分後に消灯する）	●充電完了後すぐに充電していませんか？ →すでに充電池は満充電になっています。本機から充電器をはずしてご使用ください。	20、21
充電できない（充電表示ランプが点滅している）	●指定外の充電器を接続していませんか？ →専用の充電器（WX-LZ150）をお使いください。	20、21
	●電池が極端に熱くなっていませんか？ →充電器をいったんはずし、電池を冷ましてから再度充電してください。	20、21
	●乾電池を入れていませんか？ →乾電池は充電できません。充電池を入れてください。	20、21

症　　状	原　因　・　対　策	参照ページ
充電できない （充電表示ランプが点滅している）	●劣化した充電池を入れていませんか？ →劣化した電池は使用時間が短くなる、電源が入らないなどの症状があらわれます。新しい電池に交換してください。	9、18、19
	●内部短絡した充電池を入れていませんか？ →内部短絡した電池では電源が入らないなどの症状があらわれます。新しい電池に交換してください。	9、18、19

仕様

赤外線波長	850 nm
送信チャンネル （副搬送周波数）	4波中の1波（1ch：2.30 MHz, 2ch：2.80 MHz, 3ch：3.20 MHz, 4ch：3.80 MHz）
トーン信号	32.768 kHz
発振方式	水晶制御PLLシンセサイザー方式
到達距離	約20 m（光軸上見通しにて） [赤外線ワイヤレス受信機（WX-LR100/A）、受光センサー（WX-LS100）1ch使用時]
実用受信範囲	半径約8 m［受光センサー（WX-LS100）より］
標準変調感度	±12.5 kHz FM（90 dB SPL 1 kHzにて）
最大変調感度	±40 kHz FM
内蔵マイク	単一指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
周波数特性	100 Hz～10 kHz（1 kHz基準 50 μs エンファシス）
外部入力	－14 dB φ3.5ステレオミニジャック（モノラルミックス）
使用電池	充電池：単3形ニッケル水素電池 （2 000 mAh～2 100 mAh）×1個 乾電池：単3形アルカリ乾電池×1個
電池寿命（使用可能時間） （常温25 ℃連続使用 パナソニック製使用）	約6時間（電池表示ランプ：緑色点灯および橙色点灯 単3形ニッケル水素電池HHR-3Mシリーズ使用時） 約5時間（電池表示ランプ：緑色点灯および橙色点灯 単3形アルカリ乾電池LR6EJ使用時）
外部電源	DC3.3 V（WX-LZ150（別売り）から供給）
使用温度範囲	5 ℃～35 ℃
寸法最大径	幅41 mm　長さ207 mm　厚さ37 mm
質量	約105 g（電池（約18 g）含まず）
仕上げ	マイクヘッド部：黒色塗装 グリップ部：シルバーメタリック塗装

保証とアフターサービス （よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間 7年

当社は、本製品の補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。
注） 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

22～27ページに従ってご確認のあと、直らないときは、電池、充電器を抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**
  保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
- **保証期間を過ぎているときは**
  修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。
  修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

● **修理料金の仕組み**

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容	
製　品　名	赤外線ワイヤレスマイクロホン
品　　番	WX-LT150
お買い上げ日	年　　月　　日
故障の状況	できるだけ具体的に

■当社製品のお買物・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック株式会社　システムお客様ご相談センター

フリーダイヤル 0120-878-410（パナハ ヨイワ）　受付：9時～18時（土・日・祝日除く）

ホームページからのお問い合わせは　http://panasonic.biz/pss/info

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品番	WX-LT150
販売店名	電話　（　　　）　－		

パナソニック株式会社
システムソリューションズ社

〒223-8639　横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

3TR006020BZA
Ns0409-1059
Printed in China

Panasonic®

赤外線ワイヤレスマイクロホン　WX-LT150　取扱説明書